

# あいさつ運動と 中根小の神様





お話のはじまり  
はじまり

うしき  
牛久というところに中根小という学校がありました。その中に  
ひとりぼっちの男の子がありました。



ある朝のことです。6年生が  
「おはようございます」  
と正門であいさつ運動をしていると  
「おはようございます」  
と小さな子どもたちの明るいたくさんのあいさつが返ってきました。しかし、男の子はけっして、あいさつをしませんでした。それどころか、目と目を合わせようともしなかったのです。そんな日が、毎日毎日、続きました。



6年生となかねっぴいーは  
「どうすれば男の子が、明るく元気なあいさつができるか」考え  
ました。しかし、なかなかうまくいきませんでした。  
「もう、あきらめようか」  
と誰かがいいました。しかし なかねっぴいーは、  
「男の子をひとりぽっちにしてはいけない。もう少し、みんなで頑張  
ってみよう！」  
と提案しました。すると  
「よし、みんなで頑張ろう」  
なかねっぴいーの言葉で6年生は、もう一度頑張ることになった  
のです。



なかねっこタイムのときです。鬼ごっこをしていた男の子が「コロリン」と転んでしまいました。

「あ。痛い！」

男の子は、ひざをおさえながら大きな声で、泣き始めました。6年生の女の子が、その子を見てやさしくいいました。

「だいじょうぶ？」

すると 男の子は

「痛いよ。痛いよ！」

と、もっと、もっと激しく泣きだすのでした。その声をきいて、なかねっぴーも駆けつけてきました。女の子は、男の子の涙をそっと拭き、おんぶして保健室につれていきました。なかねっぴーも心配になって後からついていきました。その時です。不思議なことに、おんぶされた男の子の心に、女の子の温かい心が「ぽかぽか。ぽかぽかぽか」と、しみわたっていくのでした。



次の日の朝のことです。道の向こうから男の子が歩いてきました。女の子の顔を見て、はずかしそうに  
「・・・おはようございます」  
と、つぶやきました。やっと、あいさつが、できたのです。



女の子は、よろこんで

「おはようございます」

と、大きな声でいいました。するとどうでしょう。男の子は、ほかの6年生にも、大きな声でいさつが、できるようになったのです。そして、いさつをすれば、するほど、どんどん、どんどん、元気になっていったのです。これには6年生も、なかねっぴいーもびっくり。そして

「よかったです」

「本当によかったです」

飛び上がって喜びました。



卒業式の朝のことです。男の子は、女の子と別れることが、さ  
みしくなって、小さな涙をうかべました。すると涙は、きれいな花  
になりました。男の子は、その花を女の子にプレゼントしました。  
すると

「わー。きれいな花・・・」  
女の子の目に涙が、キラリと光りました。その涙は、たくさんの  
きれいな花となって6年生全員の手に、しつかりとにぎられてい  
たのです。こうして、6年生は、りっぱな卒業式を迎えることが  
できたのです。

# 卒業式



じつ　　おとこ　　こ　　なかねしよう　　かみさま　　かみさま  
実は、男の子は、中根小の神様だったのです。神様がいわれました。  
なかねしよう　　ねんせい  
「中根小の6年生のみなさん。ありがとうございます。みんなの『けっし  
て、ひとりぼっちにしない温かい心』と『明るく元気なあいさつ  
運動』が、一人の男の子を明るく元気にすることができました。  
とても素晴らしいことです。卒業しても頑張ってくださいね」  
そうおっしゃると　雲の上にもどって行かれました。



やがて、6年生の残した「ひとりぼっちにしない温かい心」と  
「明るく元気なあいさつ運動」は、中根小の伝統となり、なかね  
っぴいーたちに引き継がれていくのでした。こうして、学校や地域  
のみんなが、笑顔いっぱい幸せいっぱいになっていくのでした。





牛久市立中根小学校

監修 校長 長谷川安男

文・絵 飯田 昭夫